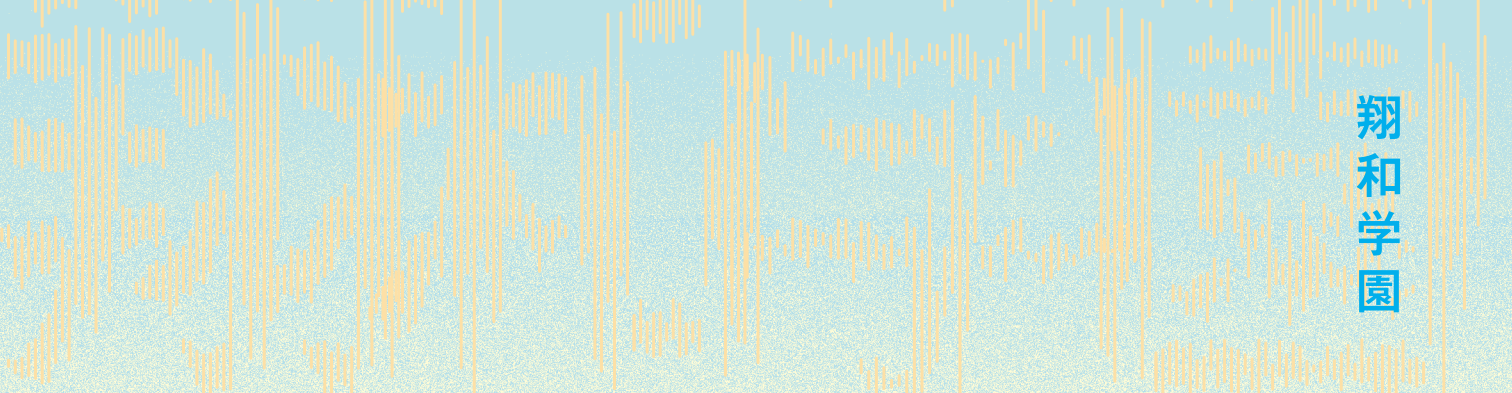
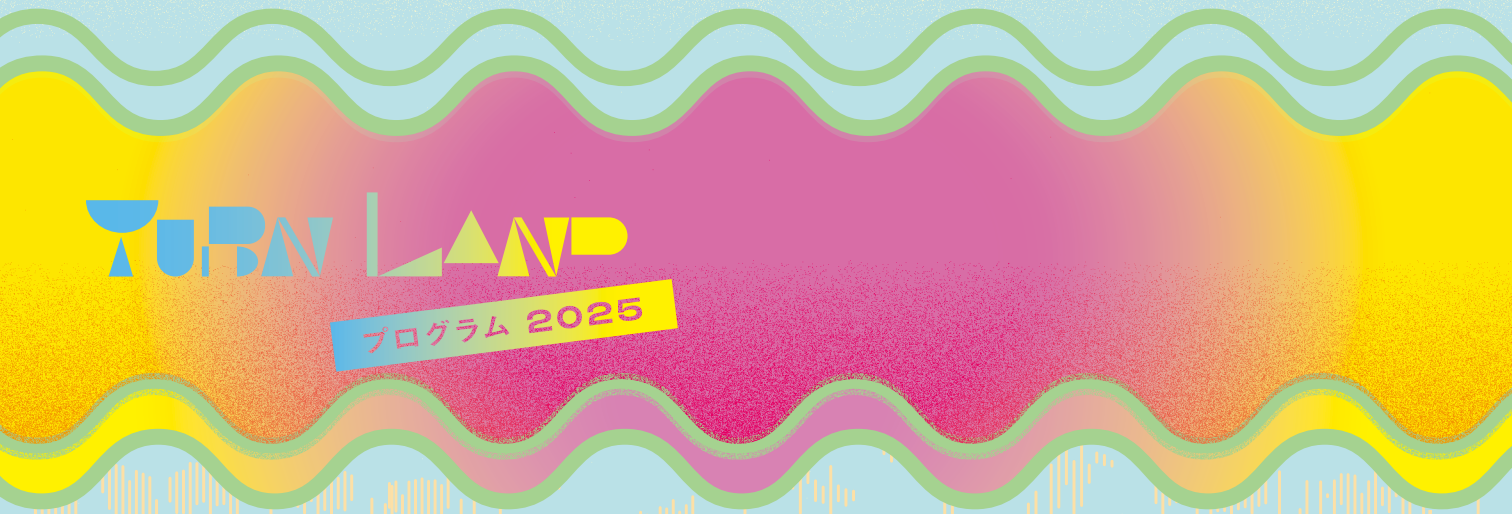
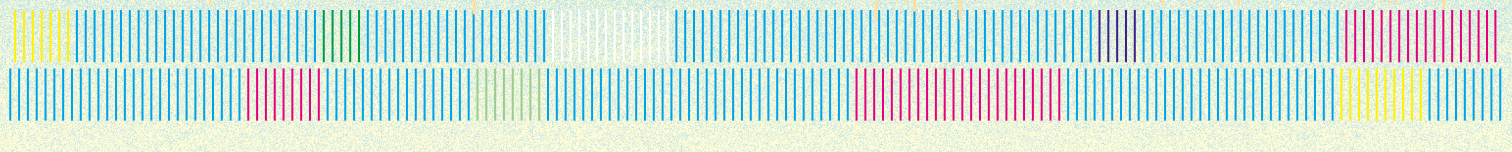


TURN LAND

プログラム 2025



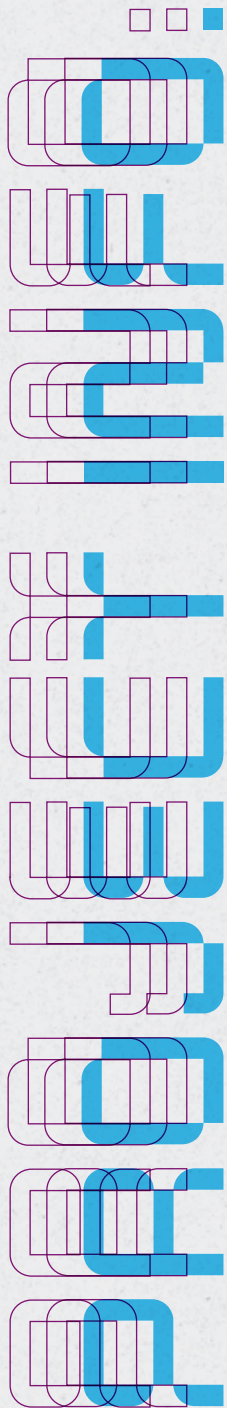
翔和学園



心をつなぐの 持ち寄りセッション

TURN LANDでは、
アーティストと福祉施設が協働し、
日常の中に、人と関わるきっかけを
つくる活動を行っています。

プレLAND2年目となる翔和学園では、
「これをやろう!」と決めて集まるのではなく、
それぞれの発見やアイデアを持ち寄って集います。
一人一人が奏でる独特の間合いが、お互いの居場所をつくり、
少しずつ心が響き合います。



音

楽

つ

く

り

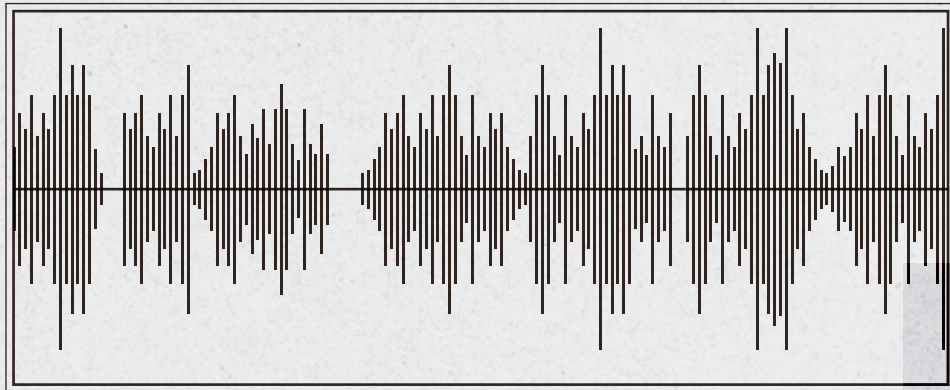
や

さ

ん

TURN LAND

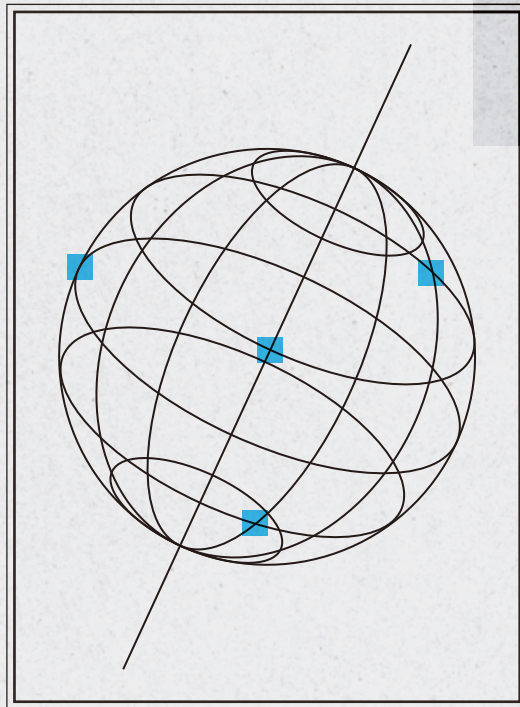
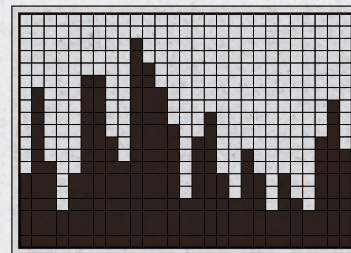
2024年から、作曲家の井川丹と田中文久とともに、学生たちの創造性を育む音楽プログラムに取り組んでいます。今年度は、通常の授業とは別の「ラボ」の時間で、一人一人の関心と音楽をつなぐ即興的なセッションを重ねています。日常の音を録音して響きを味わったり、密閉容器から音が溢れ出す面白さを体験したり、録った音をつなぎ合わせたり。そうした時間の中で、学生たちは自分の「好き」や「こだわり」を通じて音楽の奥深さを知り、音楽を介したコミュニケーションの可能性を少しずつ体感しています。



Participating Institutions

翔和学園

翔和学園では、小中学部・高等部、大学部、ワークセンター翔和、グループホーム翔和とそれぞれの段階で、「人間の生きていく気力を育てる」ことを通じて、社会で活躍できる力を育むことを目指した特別支援教育を行っている。心理、医療、就労の専門家や保護者と連携し、学習場面や生活場面で困難を抱えるこどもの早期発見・療育から就労、そして自立までの一貫した支援の実現を目指している。



PROJECT MEMBERS

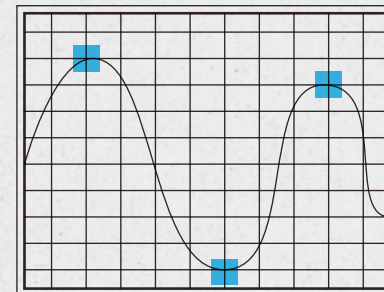


photo: Yuji Sakamoto

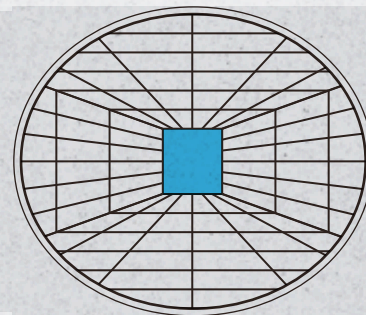
井川 丹

Akashi Ikawa

「人の声」を創作の中心に据え、表現活動を行う。演奏会用作品やサウンドインスタレーションの制作をはじめ、美術や建築、ダンスなど他領域との共同制作を多数手掛ける。近年はアートプロジェクトへの参加や市民参加型ワークショップ、こども創作教室のプログラム開発にも注力。音を介した表現やコミュニケーションを軸に、そこに居合わせた誰もが多様な関わり方のできる「場」づくりを探求している。



Artists



田中 文久

Fumihisa Tanaka

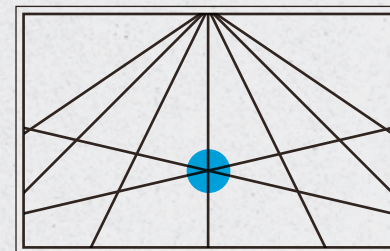
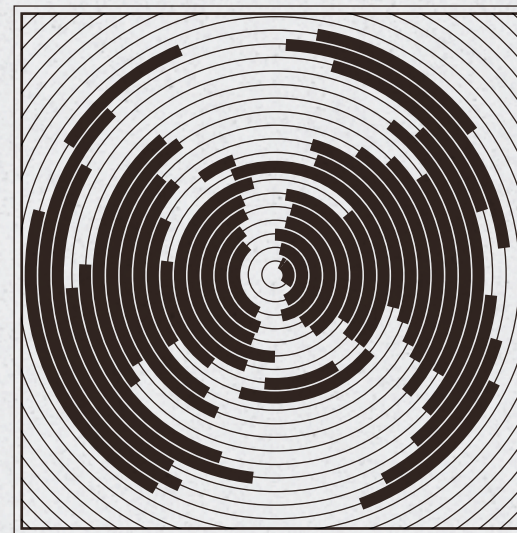
音楽に関するさまざまな技術やテクノロジーを駆使し、楽曲制作のみならず、空間へのアプローチや研究用途、最近では、あらゆるものを音に変換する「ソニフィケーション」を用いた制作・研究・開発等、音楽の新しい在り方を模索・提示している。映画やドラマ、ゲームや教育アプリのための音楽も手掛けている。

Arts Managers



TURN LANDプログラム事務局
一般社団法人 谷中のおかって
Yanaka no okatte

多様な人々がアートプロジェクトを運営する際の伴走サポートや、より多くの人々が個々のアーティストの世界観に出会い協働できるような状況をつくるチーム。



MOVIE

1分間の
活動紹介動画



NEXT

PROCESS →

SHOWWA PROCESS

5月

職員との企画会議

全体授業の枠ではなく、
テーマごとに学生たちが
活動内容から考える「ラボ」の時間で
この事業を展開することとなった。

6月

初めてのランチ

「ラボ」の学生たちと初めて集い、昼食を
共にした。各自が持ち寄った食事も
大変ユニークで、一人一人の個性の
豊かさに、二人のアーティストが
改めて関心を寄せる機会となった。

7月

二人の自己紹介

井川は蓋を開けたら曲が溢れ出す
保存容器を作りたいと話し、
田中は身近な物を叩いて鳴らした音や
採取した環境音などをパソコン上で並べて
作曲する方法を紹介した。

8月

学生との出会い

作曲が得意な学生が初めて参加した。
その彼に、二人が考案した作曲プログラムを
紹介したところ、すぐに仕組みを理解し、
没入して曲づくりを楽しんだ。

学園祭に参加

井川と田中は作曲が得意な学生と一緒に
その場を訪れた人と音楽をつくる場を
開いた。来場者に加え、交流を重ねてきた
学生の姿もあり、見守る側だった学生が
この日初めて体験の輪へと踏み出した。

9月

音楽との接続

学生たちが熱中している料理や電車、
サッカー、アニメなどの話をきっかけに、
二人のアーティストも音楽的視点を交えて
話を広げた。みんなの音楽への関心が
自然と深まっていた。

11月

ゲームで交流

学生たちが深く熱中していることと
ゲームを掛け合わせた遊びを展開した。
ゲームを通じて表れた学生たちの感性を、
アーティストたちが言葉にし、
それをみんなで分かち合った。



描く絵が楽譜となり音が流れる

こだわりだらけ

カ
オ
ス
な

音の実験



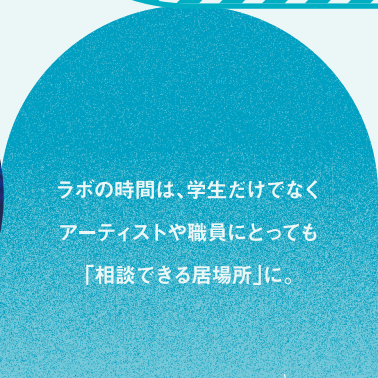
他愛もない雑談を「それは面白いね」と真顔で受け止めてくれる関係が信頼を育みました。



予定調和ではない場をつくることで、学生が自分のリズムの延長線上で関わることができました。



音楽ソフトで作曲



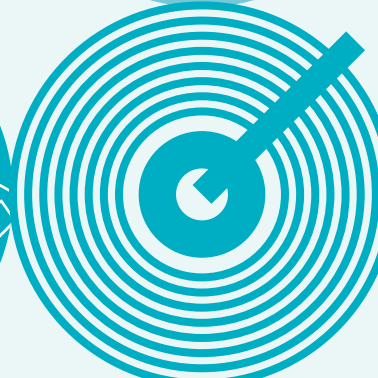
ラボの時間は、学生だけでなくアーティストや職員にとっても「相談できる居場所」に。



利用者
にとって

「好き」をきっかけに、仲間が増える時間になった

自分のペースで取り組みつつ同じ場で活動することで、関心や得意なことが少しずつ共有されました。アーティストが他の大人と異なる立場で見守ってくれることで、リラックスして思考を深めることができました。



アーティスト
にとって

ラボ型プログラムの実践になった

完成形を決めず、場で生まれたアイデアや反応を手がかりに、その場を音楽的に楽しむプロセスとなりました。学生の関心に寄り添い、自らの関心と掛け合わせながら同じテーブルで膨らませる経験が重なりました。



職員
にとって

授業とは違う距離で、学生と「試せる」場になった

職員も同じ場で見守りながら関わり、相談や意見交換が自然に生まれました。学生が取り組む様子を近くで共有できることで、普段の関わりとは違う手応えが残り、場の空気がやわらぎました。





井川 丹
(アーティスト)

「教育現場からの学び」

教育現場でもあるこの場で、自らの立ち位置が揺らぐ瞬間がたくさんありました。学生の行動を安易にジャッジせず、隣で共に迷い考える先生方の姿にもハッとさせられました。成果を急がず、その場の揺れや混乱と一緒に引き受けることも、アーティストの役割なのかもしれないと感じました。



田中 文久
(アーティスト)

「作曲する喜びを再確認」

バンドの一員のように学生と遊ぶ重要性を実感しました。四六時中作曲に没頭し、その行為を心から楽しむ学生との出会いは、同じ表現者として深く共感するものがありました。彼の純粋な情熱をはじめ、学生さんたちの「熱中」を垣間見れたことは、私にとっても大きな励みとなりました。



榛谷 朗
(翔和学園職員)

「日常に寄り添う仲間が増えた」

貴重な機会となりました。私たちも学生とフラットな関係でいたいと思ってます。対等に関われる仲間が増え、学生たちの意外な一面も見れたことが嬉しいです。「彩能」が社会化される経験は、学生にとって大きな誇りと自信になったはずです。



浅沼 香南
(翔和学園職員)

「自然体が生む価値」

小規模かつ自然な流れで始まった交流が、学生たちの特性に合っていてよかった。気負いすぎず、リラックスした状態で活動できたことが良い結果につながったと思います。肩の力を抜いた対話の中から、彼らしい感性が自然と引き出されていく様子が印象的でした。



TURN LAND
プログラム事務局

「魅力を引き出し合っていた」

この時間の価値をそれぞれに見い出して、「自分にとってのお気に入りの過ごし方」を育てているのが印象的でした。アーティストが学生の集中力の深さに感化されたり、アーティストが依頼することで初めて社会化する一面もあつたり、職員とのエネルギーの共鳴も素敵でした。

MEMBERS' COMMENTS



TURN LAND

ってなに？

福祉施設などを拠点に
アートプロジェクトを行う
文化事業です。

誰がやってるの？

東京都、アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかってが
共催する事業です。東京都内にある福祉施設や福祉事業所を拠点に、
その施設に出入りする人々（職員や利用者、その家族や地域協力者など）と
プロジェクトチームをつくり、力を合わせてアートプロジェクトを
企画・運営します。

どんなアーティスト？

音楽やダンス、演劇、映像、手工芸など
表現のジャンルはさまざま、その場に関わる人々との
コミュニケーションを楽しみ、交流を通じた
新たな手法開発に前向きな姿勢がある。

なぜアート？

共創型のアートプロジェクトでは、
「作品」をつくるだけではなく、
そこにいる人々と「アートなひととき」を
つくることができます。
これは文化のアウトリーチでもあり、
医学的ケアを超えて、誰もが「人」として
社会参加できる文化的な時間をつくる
挑戦です。

なぜ福祉施設でやるの？

障害のある方々が落ち着いて
時間を過ごせる環境
(設備や習慣、人との関係)がある。

個々の障害特性と向き合うことで、
障害をこえて一緒に楽しめる
プログラムが開発できる。

さまざまな理由で文化施設などに
行くことができない
障害のある方たちにアートを届ける。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京、一般社団法人 谷中のおかって
発行：2026年3月25日
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
※営利・非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく
複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。



TOKYO
METROPOLITAN
GOVERNMENT



©TURN LANDプログラムの
公式ホームページ



©TURN LANDプログラムの
他の活動をチェック

